日本語で学ぶ

中期朝鮮語

第4版 標準中世国語文法論

1. 文字、表記法、発音

1. 1. 文字

1. 1. 1. 訓民正音の創製

現在私たちの社会で共用されているハングルの本来の名前はであった。これは「をふるしき」という意味である。訓民正音は25年12月[[1]](#footnote-1)に作られた。

朝鮮王朝実録の世宗実録巻第一百二（世宗25年12月）には次のように記されている。

1. 是月，上親制諺文二十八字，其字倣古篆，分為初中終聲，合之然後乃成字。凡干文字及本國俚語，皆可得而書。字雖簡要，轉換無窮，是謂訓民正音。

の、らをりたり。のはのにひたるが、・・にれり、するのるにちる。そびのにてくべし。とも、がたりて、れをとふ。

今月、王が御自ら諺文28字を制られた。その字は古の篆書に倣ったが、初声・中声・終声に分けられて、合わせた後に字ができる。およそ漢字と我が国の言葉までみな書くことができる。文字は簡単で緊要だが、転換が無窮である。これを訓民正音という。

上の記録から、私たちは訓民正音の創製者と、創製された文字の数はもちろん、その構造的特性までも知ることができ、記写範囲と運用原理に対してもその輪郭を把握することができる。

1. 1. 2. 創製目的

訓民正音の創製目的は、世宗28年（1446年）9月の『訓民正音』の例義の頭に記されている。

1. 國之語音，異乎中國，與文字不相流通，故愚民，有所欲言而終不得伸其情者，多矣。予，為此憫然，新制二十八字，欲使人人，易習，便於日用耳。

の、になり、とひせず、にかなる、はんとするれども、ひにのをぶるをざる、し。、れがにたりて、たにをり、をして、くひ、にゐるにたらしめんとするのみ。

나랏〮 말〯ᄊᆞ미〮, 中듀ᇰ國귁〮에〮 달아〮, 文문字ᄍᆞᆼ〮와〮로〮 서르 ᄉᆞᄆᆞᆺ디〮 아니〮ᄒᆞᆯᄊᆡ〮, 이〮런 젼ᄎᆞ〮로〮 어린〮 百ᄇᆡᆨ〮姓셔ᇰ〮이〮 니르고〮져〮 호ᇙ〮 배〮 이셔〮도〮, ᄆᆞᄎᆞᆷ〮내〯 제 ᄠᅳ〮들〮 시러〮 펴디〮 몯〯ᄒᆞᇙ 노〮미〮 하니〮라〮. 내〮 이〮ᄅᆞᆯ〮 爲윙〮ᄒᆞ〮야〮 어〯엿비〮 너겨〮, 새〮로〮 스〮믈〮여듧〮 字ᄍᆞᆼ〮ᄅᆞᆯ〮 ᄆᆡᇰᄀᆞ〮노니〮, 사〯ᄅᆞᆷ마〯다〮 ᄒᆡ〯ᅇᅧ〮 수〯ᄫᅵ〮 니겨〮 날〮로〮 ᄡᅮ〮메〮 便뼌安ᅙᅡᆫ킈〮 ᄒᆞ고〮져〮 ᄒᆞᇙ ᄯᆞᄅᆞ미〮니라〮.

我が国の言葉は中国と異なり、漢文と互いに通じず、ゆえに愚かな民は言いたいことがあっても、ついにはその意を述べることのできないこと[[2]](#footnote-2)が多い。私はこれを憐れに思い、新たに二十八字を作った。これは人々が簡単に習い、日々使うのに楽に[[3]](#footnote-3)させたいだけである。

これは訓民正音の創製の趣旨を述べた、世宗の国民への公示文である。漢字がわからない一般庶民の文字生活を楽にさせるために新しい文字を作った、ということが明確に表されている。

当時、知識階級の人には漢字・漢文やこれをもとに作られた、[[4]](#footnote-4)[[5]](#footnote-5)によって表現するという術があったが、多数の国民には文字生活を営むことのできる環境が形成されていなかった。世宗は、韓国語と中国語との差を深く認識し、漢字をもってしては民が楽に円満な文字生活をするのは難しいと思い、訓民正音を作ったものと考えられる[[6]](#footnote-6)。

1. 1. 3. 創製された文字とその読み

訓民正音の例義[[7]](#footnote-7)には、創製された28字を初声と中声[[8]](#footnote-8)にかけて一定な順序により並べ、その発音法を、漢字を用いて次のように説明している。

* 1. ㄱ，牙音，如君字初發聲．並書，如虯字初發聲．

ㄱはにして、君ののし。すれば、虯ののし。

ㄱᄂᆞᆫ〮 엄〯쏘리〮니〮, 君군ㄷ字ᄍᆞᆼ〮 처〮ᅀᅥᆷ 펴〮아〮 나〮ᄂᆞᆫ 소리〮 ᄀᆞ〮ᄐᆞ니〮, ᄀᆞᆯᄫᅡ〮 쓰〮면〮 虯뀨ᇢㅸ字ᄍᆞᆼ〮 처〮ᅀᅥᆷ 펴〮아〮 나〮ᄂᆞᆫ 소리〮 ᄀᆞ〮ᄐᆞ〮니라〮.

ㄱは牙音で「君」の字の初めに発する音と同じである。並べて書けば「虯」の字の最初の音と同じである。

* 1. ㆍ，如呑字中聲。

ㆍは、呑字の中聲の如し。

ㆍᄂᆞᆫ〮 呑ᄐᆞᆫㄷ字ᄍᆞᆼ〮 가온〮ᄃᆡᆺ〮소리〮 ᄀᆞ〮ᄐᆞ〮니라〮.

ㆍは「呑」の字の中声と同じである。

訓民正音は新たに作られた文字なので、その発音法を教えるためには、既に使われていた漢字を用いざるを得なかった[[9]](#footnote-9)。

(3イ)は初声の発音法を説明したもので、ㄱは君(군)という漢字の初声のように発音するという意味である。(3ロ)は中声の発音法を説明したものである。(3ロ)のㆍは、[ᄋᆞ]のように、(3イ)のㄱは[기]のように読んでいたと思われる[[10]](#footnote-10)。これから子音字は[기ᄂᆞᆫ〮]のように読むことにする。

1. 1. 4. 初声字

初声の17字を、例義と解例の用語に従って配置すると次のようになる。初声は、基本的に発音器官の形に倣い、それに画を加えて作られた。

1. 初声17字

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |
|  | ㄱ | ㅋ | ㆁ |
|  | ㄷ | ㅌ | ㄴ |
|  | ㅂ | ㅍ | ㅁ |
|  | ㅈ, ㅅ | ㅊ |  |
|  | ㆆ | ㅎ | ㅇ |
|  |  |  | ㄹ |
|  |  |  | ㅿ |

牙音、舌音などが調音位置による初声の分類とすれば、全清・次清・不清不濁は調音方式による分類である。

例義には、全清のㄱㄷㅂㅅㅈと次清のㅎをそれぞれするとのㄲㄸㅃㅆㅉㆅが作られる、という事実も言及されている。

1. 1. 4. 中声字

中声の11字は次のように並べられている。中声は、基本的には天・地・人の三才に倣い、初声と同じように画を加えて作られた。

1. 中声11字

ㆍ ㅡ ㅣ ㅗ ㅏ ㅜ ㅓ ㅛ ㅑ ㅠ ㅕ

中声の11字の中で、ㆍㅡㅣㅗㅏㅜㅓの7字は単母音で、残りは副音[[11]](#footnote-11)のyを前置した重母音であるが、例義にはそのような違いは説明されていない。

(1)に記されている訓民正音28字とは、(4)の初声17字と(5)の中声11字を合わせたものである。

1. 1. 5. 終声字

終声は、次の規定によって、文字を作らずに初声字を用いた。

1. 終聲復用初聲。

はたをゐる。

乃냉〯終쥬ᇰㄱ 소리〮ᄂᆞᆫ〮 다시〮 첫〮소리〮ᄅᆞᆯ〮 ᄡᅳ〮ᄂᆞ〮니라〮.

終声字は初声字をそのまま使う。

1. 1. 6. 文字の運用

その他、例義には文字の運用に関するいくつかの付帯事項が提示されている。

1. ㅇ連書脣音之下，則為脣軽音．初聲合用則並書，終聲同．ㆍㅡㅗㅜㅛㅠ，附書初聲之下．ㅣㅏㅓㅑㅕ，附書於右．凡字必合而成音．左加一㸃則去聲，二㸃則上聲，無則平聲．入聲加㸃同而促急．

ㅇをのにすれば、ちをす。のはちし、じ。ㆍㅡㅗㅜㅛㅠは、のにし、ㅣㅏㅓㅑㅕは、にす。そはずしてをすが、につをふればち、つすればち、きはちなり。のふるはじくすれどもなり。

ㅇᄅᆞᆯ〮 입시울〮쏘리〮 아래〮 니ᅀᅥ〮 쓰〮면〮 입시울〮가ᄇᆡ〮야ᄫᆞᆫ〮소리〮 ᄃᆞ외ᄂᆞ니〮라〮. 첫〮소리〮ᄅᆞᆯ〮 어울〮워〮 ᄡᅮᇙ〮 디〮면〮 ᄀᆞᆯᄫᅡ〮 쓰〮라〮. 乃냉〯終쥬ᇰㄱ 소리〮도〮 ᄒᆞᆫ가지〮라〮. ㆍ와〮 ㅗ와〮 ㅜ와〮 ㅛ와〮 ㅠ와〮란〮 첫〮소리〮 아래〮 브텨〮 쓰〮고〮, ㅣ와〮 ㅏ와〮 ㅓ와〮 ㅑ와〮 ㅕ와〮란〮 올〮ᄒᆞᆫ 녀긔〮 브텨〮 쓰〮라〮. 믈읫 字ᄍᆞᆼ〮ㅣ 모로〮매〮 어우〮러ᅀᅡ〮 소리〮 이〯ᄂᆞ니〮, 왼〯 녀긔〮 ᄒᆞᆫ 點뎜〯을〮 더으면〮 ᄆᆞᆺ〮 노ᄑᆞᆫ〮 소리〮오〮, 點뎜〯이〮 둘〯히면〮 上쌰ᇰ〯聲셔ᇰ이〮오〮, 點뎜〯이〮 업〯스면〮 平뼈ᇰ聲셔ᇰ이〮오〮, 入ᅀᅵᆸ〮聲셔ᇰ은〮 點뎜〯 더우〮믄〮 ᄒᆞᆫ가지〮로ᄃᆡ〮 ᄲᆞᄅᆞ니〮라〮.

ㅇを唇音の下に連ねて書けば唇軽音を表す字母になる。初声の字母を組み合わせて用いるときは並べて書き、終声の場合も同じである。ㆍㅡㅗㅜㅛㅠは初声字母の下に付けて書く。ㅣㅏㅓㅑㅕは初声字母の右に付けて書く。全ての字母は必ず組み合わせることで一つの音をなす。文字の左に点を一つ付ければ去声であり、二つ付ければ上声であり、点がなければ平声である。入声も場合も同じく点を付けるが、音が詰まっていて急である。

(7)の1つ目は、ㅇを唇音の下に連ねて書けばㅱㅸㅹㆄのよう な唇軽音になるという意味である。この中ではㅸのみが韓国語の表記に使われた。

2つ目は、初声を合わせるときは縦に並べず、ㅺㅵのように横に並べるという意味である。

3つ目は、ㆍㅡㅜのように横に平たい文字はᄀᆞ그구のように初声の下に付けて書き、ㅣㅏㅓのように縦に長い文字は기가거のように初声の右に付けて書くという意味である。

読むと嬉しみが増します

日本語

<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/choes/korean/middle/Jmiddle.html>

<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/choes/korean/middle/text/kairei.html>

韓国語

<https://opendict.korean.go.kr/main>

<http://db.sejongkorea.org/>

<https://ko.wikibooks.org/wiki/%EB%8F%99%EA%B5%AD%EC%A0%95%EC%9A%B4_%EC%83%89%EC%9D%B8>

<http://scp-ko-15c.wikidot.com/sandbox:crayontoast>

<https://namu.wiki/w/%EC%A4%91%EC%84%B8%20%ED%95%9C%EA%B5%AD%EC%96%B4>

英語

<http://www.chiyukit.sakura.ne.jp/publications.html>

参考文献

南廣祐 (1997). 敎學 古語辭典

劉昌惇 (1964). 李朝語辭典

한글학회 (1947, 1991). 우리말 큰사전 (옛말과 이두)

高永根 (1987, 1996, 2010, 2020). 표준 중세 국어 문법론

口訣學會 (1996). 口訣硏究 1

權仁瀚 (2005, 2008). 中世韓國漢字音訓集成

김무림 (2004). 국어의 역사

金完鎭 (1996). 음운과 문자

나찬연 (2020). 중세 국어의 이해

南鶴 李鍾徹先生 回甲紀念論叢 刊行委員會 (1995). 韓日語學論叢

安秉禧, 李珖鎬 (1990). 中世國語文法論

安秉禧 (1992). 國語史硏究

安秉禧 (2007, 2013). 訓民正音硏究

李基文 (1991). 國語 語彙史 硏究

李基文 (1961, 1972, 1998). 國語史槪說

李崇寧 (1961, 1981). 中世國語文法 ― 15世紀語를 주로 하여 ―

이진호, 최영선, 이수진, 선한빛 (2015). 15세기 국어 활용형 사전

장윤희 (2002). 중세국어 종결어미 연구

黃文煥 (2002). 16, 17世紀 諺簡의 相對敬語法

許雄 (1975, 2009). 우리 옛말본 (15세기 국어 형태론)

許雄 (1985, 2017). 국어 음운학 (우리말 소리의 오늘·어제)

許雄 (1989). 16세기 우리 옛말본

Ki-Moon Lee, S. Robert Ramsey (2011). A History of the Korean Language

伊藤智ゆき (2007). 朝鮮漢字音研究

福井玲 (2013). 韓国語音韻史の探究

河崎啓剛(가와사키 케이고) (2016). 중세한국어 감동법 연구 — ‘깨달음’과 ‘복수성’ —. 국내박사학위논문 서울대학교 대학원

곽용주 (1996). ‘동사어간-다’ 부정법의 역사적 고찰. 국내석사학위논문 서울대학교 대학원

김수태 (2003). 마침법 씨끝 ‘-(으)이’에 대하여. 우리말연구, 13, 1-30

金裕範 (2001). 시간성 의존명사 '다'를 찾아서. 형태론, 3 (2), 209-229

金政大 (2005). 계사 ‘이-’의 기원형 ‘\*일-’을 찾아서. 우리말글연구, 35, 1-41

남미정 (2016). 중세·근대국어 보조사 연구의 쟁점과 과제. 국어사연구, 23, 33-70

문병열 (2009). 중세 국어 한정 보조사의 의미·기능과 그 변화 양상. 國語學, 54, 137-164

문병열 (2019). 중세 한국어의 선어말 형태 ‘-니-’에 대하여 — 기존 논의 검토를 중심으로 —. 국어문학, 71, 31-61

박용찬 (2006). 15세기 국어 연결 어미와 보조사의 통합형 연구. 국내박사학위논문 서울대학교 대학원

박용찬 (2014). 중세국어의 ‘다가’에 대한 고찰. 반교어문연구, 38, 227-276

박진호 (2015). 보조사의 역사적 연구. 國語學, 73, 375-435

박형우 (2010). 15세기 특이처격어에 대한 연구. 한민족어문학, 57, 163-188

배영환 (2012). 현존 最古의 한글편지 ‘신창맹씨묘출토언간’에 대한 국어학적인 연구. 국어사연구, 15, 211-239

서정호 (2018). 15세기 의존명사 목록의 재검토. 동악어문학, 76, 91-123

서종학 (1983). 中世國語 「브터」에 대하여. 國語學, 12, 169-191

소신애 (2008). 중세 국어 음절말 유음의 음가와 그 변화. 國語學, 53, 35-64

양영희 (2004). 중세국어 3인칭 대명사의 존재와 기능 검증. 용봉인문논총, 33, 5-31

양영희 (2007). 15세기국어 대명사 체계 설정 — 인칭대명사를 중심으로 —. 배달말, 40, 5-32

유민호 (2008). 여격 조사의 형성과 변천. 국내석사학위논문 고려대학교 대학원

李珖鎬 (2009). ‘므스’와 ‘므슥/므슴/므슷’의 의미특성 및 형태변화. 국어국문학, 151, 35-57

이근식 (2004), ‘-서’의 의미 기능에 대한 통시적 고찰 — 중세 국어와 현대 국어 비교를 중심으로 —. 국내석사학위논문 경기대학교 교육대학원.

李基文 (1978). 國語의 人稱代名詞. 冠嶽語文硏究, 3(全光鏞博士華甲紀念論叢), 325-338

이기백 (1975). 국어 조사의 사적 연구. 어문론총, 9, 7-98

이동석 (2014). 중세국어 ‘거긔’ 구성의 의미 기능과 문법화. 국어사연구, 19, 171-201

이유기 (2013). 선어말 형태소 ‘-니-’의 기능. 국어사연구, 16, 173-204

이지영 (2013). ‘-로서’ 구문의 통시적 변화. 국어국문학, 165, 151-182

장요한 (2010). 중세국어 조사 ‘-ᄃᆞ려’, ‘-더브러’, ‘-ᄋᆡ/ㅅ손ᄃᆡ’의 문법. 한민족어문학, 56, 5-43

鄭堯一 (2008). 『訓民正音』 「序文」의 ‘者’·‘놈’의 意味와 관련한 古典 再檢討의 必要性 論議 — ‘者’와 ‘놈’은, ‘것’ 또는 ‘경우’를 뜻한다 —. 語文硏究, 36-3, 269-295

장윤희 (1996). 중세국어 ‘-이ᄯᆞ녀’ 구문의 구조와 성격. 冠嶽語文硏究, 21, 339-376

장윤희 (1997). 중세국어 종결어미 ‘-(으)이’의 분석과 그 문법사적 의의. 國語學, 30, 103-140

장윤희 (2012). 국어 종결어미의 통시적 변화와 쟁점. 국어사연구, 14, 63-99

정재영 (2006). 한국의 구결. 口訣硏究, 17, 129-189

조재형, 최홍열 (2016). 후기 중세국어 시기의 부사격 조사 ‘-에셔’와 서술어의 관계 고찰. 한말연구, 40, 279-313

하귀녀 (2004). 보조사 ‘-곳/옷’과 ‘-火七’. 國語學, 43, 181-208

하귀녀 (2005). 국어 보조사의 역사적 연구. 국내박사학위논문 서울대학교 대학원

황경수 (2001). 중세국어 의존명사의 의미기능에 대한 연구. 언어학 연구, 5, 213-239

황국정 (2015). 15세기 국어 이동동사 구문 연구 — 기본 문형과 통사적 특징에 대하여 —. 인문학연구, 27, 33-66

Chiyuki Itō (2013). Korean Accent: Internal Reconstruction and Historical Development

Taewoo Kim (2014). The evolution of /r/ final verbs in Korean

1. 訓民正音の創製年代は1443年だと言われていたが、世宗25年12月は陽暦に換算すると1444年1月の可能性が高い。 [↑](#footnote-ref-1)
2. これまでは、原文の「者」を「ひと」と解釈してきたが、(2008)より「場合」と解釈するべきであるという説が提示された。文脈からするに、「ひと」よりは「場合」のほうがより説得力がありそうに思える。いろんな人の見解を聞いてみる必要がある。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 訓民正音序文の「便於日用耳」の「便」は「便利」と解釈してきたが、肉体的な便利さよりは「精神的安らかさ」と解釈するべきという見解が(1996/2007: 81-90)より提示されている。 [↑](#footnote-ref-3)
4. 口訣には口訣、口訣、口訣がある。符号口訣はや符号を用いる口訣である。釈読口訣は1970年代中盤に発見され、この二十年余りの間多くの研究がなされてきた。漢文に吐を付け足して韓国語として読むようにしたもので、従前に知られていた音読口訣とはその性格が完全に異なる。音読口訣は、漢文を読むときに読みやすいように間に入れる吐のことを指す。これに関する情報は『口訣硏究』第1輯(1996)のの「卷頭言」と彙報、関連論文、そして(2006)を見よ。 [↑](#footnote-ref-4)
5. 訳注：韓国語では、助詞・語尾などの付属語のことをという。 [↑](#footnote-ref-5)
6. 訓民正音の創製目的に関する研究は、(1972/1996: 301-45)を見よ。 [↑](#footnote-ref-6)
7. 例義は『』(1447)の巻1の頭に「訓民正音」という名前でされ載っていて、それが『』(1459)の巻1の頭に「世宗御製訓民正音」という名前で掲載されたという意見が正しいように思える。(1986/1992a: 186-95, 2007: 11-23)を見よ。国語史学会会長の教授（大学校）の労力により正本が政策されたことがあり(文化財庁 2007)、2017年には『国宝第70号訓民正音正本制作研究』(文化財庁)が発刊された。 [↑](#footnote-ref-7)
8. 訳注：韓国語の頭子音のことを、母音のことを、パッチムのことをという。 [↑](#footnote-ref-8)
9. これは、英語などの外国語の発音を学ぶとき、母語の発音が土台となるのと似ている。 [↑](#footnote-ref-9)
10. (1959/1978: 4-5)では、中性母音終わりの単語には陽母音の語尾が来て、『』のすべての初声字が母音ㅣを持っていたという事実を根拠に、[기ᄂᆞᆫ〮]のように読まれていた可能性を提示した。 [↑](#footnote-ref-10)
11. 副音は伝統的に딴이（直訳：異なるイ）と呼ばれ、重母音の前後に出現する半母音のことを指す。jと表記することもある。 [↑](#footnote-ref-11)